

文 福山 佑輝 (art) 取材協力: truth planning

音楽ディレクターである筆者が、京都学生人口約30万人の中から「京都版モーニング娘。」を作り上げる事を目指した本企画。既に11冊を連載し、関西圏では本コーナーにスクワインクされる事が、デビューへの登壇門とされていると評判。



Entry. 0015

## リサーチんぐ娘。

石野 有紀 いしの ゆき

1986.10.1生まれの16歳 身長158cm B81.W59.H80  
おしゃれなカフェを探索し、おいしいケーキを発掘するのがマイブーム。  
中でもチーズケーキには相当なこだわりがあるとの事。

最近歌手活動もスタートさせ、人気爆発のVMモデル佐田真由美ちゃん。筆者も大ファンであるのだが、そんな彼女に瓜二つというか、足すタッキーといった表現がハマルかもしれない新高2の有紀ちゃん。一見派手めな彼女だが、茶髪のマキガミにはまだまだ背伸びした16歳の素顔が見え隠れする。ハーフに見えるが生粋の純京都人。



Entry. 0016

「京都最強の美少女」というフレコミで発掘チームが連れてきた多恵ちゃん。まだ高校に入学したばかり昭和62年生まれの新ージェネレーション。おっとりとした仕事や、節目がちな流し目には「リサ娘。」男性スタッフも、とにかくクラクラきていた。未恐ろしい15歳だ!



河村 多恵 かわむらたえ

1987.8.26生まれの15歳 身長156cm B78.W57.H79  
「趣味は何?」という質問に「ネイルアートは人生」と語ったその確かな夢の大きさには感服!

## 次号予告!

京都女子高生シーンを震撼させた「リサ娘。」企画発足より早1年5週に來号、タイトルを改めバージョンアップします! その名も「アイドル発掘☆リサーチんぐ娘。」業界裏話や仮面座談会等、毎回ゲストを迎え誌面1/3を盛況山に演出! ミリオンセラーアーティストの発掘を目指します。6/1発売7月号を乞うご期待!

現在「リサーチんぐ娘。」のIP制作中、IPでしか見られないHOTO満載。読者投票制による特別企画も予定! 要チェック!

PROFILE 1958年、京都生まれの専身リターンワーファーで企業キャラコクター、雑誌編集員をしつつ、日夜ペンネームにて刺を磨き上げては、下着誌ネタをあさっている。特技: 若づくり  
<http://www.m21.or.jp/fame/aikuru>

44

## 旭興業 アリスちゃん

298mm



誕生日: 昭和30年代後半~40年代初頭と推測  
生みの親: 旭興業  
出生地: 滋賀県彦根市山崎町(高土工業が大平藤造がたけのこ用材用材社が置かれていた東京大のめいあしんがの三連ビルにたつたのでは、と推測)  
名前: 「アリス」ちゃん(勝手に仮称命名!)  
身長: 298mm  
特徴・特技: すばりSMコスチューム風トップレスかつノーパン履。逆毛を思いっきり立てた高直成肌髪型がヘアアーに真っ青なシャドウでウイングしながら動き出す短髪ボーイは世の男性観望には、たまりません。  
年齢: 不詳 (たぶん20代)  
役割: たぶん「ALICE」のブランドイメージをかんたんにディスプレイホルダーとして販促用に作られ、量産的に配られたものと思われる。

※アリスのコーヒーキューブ(またはアイスキューブ)は「アイエン」にて現在も試飲できますが、お時の方は保証できませんので、あしからず。  
お問い合わせは075-211-8833 香子ママまで。

© QUATRE ILLUSTRATION



いやあ京都は、まだまだええお宝が眠ったはるとこずなあ。というもおいらの行きつけ「アイエン」つつうそれはもうミッドセンチュリージャパンな洋酒喫茶が、四条は富小路を上ったところにあって、入り口には「カウンターレディ募集中!」とかいう時代錯誤なPOPが貼ってあるかと思えば、店内には大きな鎧カブトの大将さんや中国の壺、シャンデリアに雉の刺繍とくれば、今だ現役で活躍する「SEEBURG」のジュークボックスでな具合のインテリアが、これまた「アメリカ人的勘違いニッポン」感覚でところ狭しと並んでいるからして、そりゃあもうこの雰囲気たるもの、わが町が誇るオーセンティックバー「サンボア」や「養軒」でも、ちとここのワールドにゃ〜勝てますまい。てなことを思いながらいつものようにカウンターに座れば、ママが角瓶のハイボールをそっと差し出し、グラス片手に小林亜星作の「ワサカ娘」をカラオケ絶唱したならば、何ともいい感じで夜が更けて来る。ほろ酔い気分でバック棚のボトルにふと目をやると、あ〜懐かしの今は亡き国産洋酒メーカー、「アリス」のリキュールボトルが無性に触りたくなってくる。中んづく歌

歴の浮世絵が素焼きのボトルに描かれた「グリンティー・リキュール」や陶器に桜の扇面絵が入った「チェリー・ブランディ」はオー! ジャパニーズ、ワダフォ〜な酒瓶を超越した芸術品。いやあこれぞわが国きっての貴重な文化遺産なのであります。そんなこんなで、どぼちてこの店にこの銘柄が?とママさんに尋ねれば、惜しくも3年前に他界したこの店のマスター、塚本良和氏が今からおよそ40年前、木屋町は「エリザベス」という洋酒喫茶で修行していた時分からの愛重品だったらしく、独立後の「アイエン」に至ってもそのスタイルやマテリアルは全て踏襲したという、ごくごく自然の成り行きだったよう…。いやいや、しかし何ですな〜、やっぱ今回の極めつけは誰が何と言おうとこのピンクでアダルトでブレイメイトな彼女、「アリスちゃん?」がしかとボトルを抱きしめる、この愛くるしいポーズのマスコットに他ならんでしょうなあ…。



自称「思い込みが激し過ぎるライター」  
中尾が、日常に潜んだ謎や疑問を勝手に  
解釈、解明するアナーキーコーナー…!

## 推定ライト スクープ!

クッキーにさえ、すがりたい。  
原稿に追われる辛い毎日→修道院製クッキーを発見  
→なんだかご利益があるかもしれない→  
クッキーが作られた本当のワケを知る



●洋酒 タキノ  
京都市中京区烏丸錦東入北側  
8:30~19:30/土日祝休

締め切りがケツを叩かれ、パソコンの前でうたた寝し、編集者の夢を見る。最後に布団を敷いて寝たのはいつの日のことだったか…。女放棄の病んだ生活を送るワタクシ。さすがに見つめた先に、この酒屋がありました。「洋酒タキノ」。その看板には、「修道院製クッキー」「ローマ法王指定ミサ用ワイン入荷!」とあります。「なんだかよく分かんが、ご利益があるかもしれない」。もっぱら幸が薄いという評判の29歳、ふらふらと店内へ。ほのぼのとしたご主人に詰め寄るように聞きました。「なんなんですか?修道院製クッキーって、私、幸せになれるんですか?!」。ご主人は穏やかに言いました。「修道院には、観音修道士院といて、山間で自給自足の生活を送り、クッキーやジャムを作って齋々と生計を立てる一派があるのです。私も先代もカトリックの教徒でして、そのご縁で置かせてもらってるんですよ。おお、アメン…。俗世間との交わりを絶ち、禁欲的な生活を送るシスターが祈りを込めて焼いたクッキーなのである。ロクに睡眠も取れず、男もいない。そんな禁欲生活を送りながらも齋々と原稿を書く。なんだか私達、似てません? (遠くで)。